

安田侃彫刻美術館アルテピアッツァ美唄 ビジョン

アルテ フトゥーラ

ARTE FUTURA – アルテの未来



平成30年6月

美唄市 教育委員会

安田侃彫刻美術館 アルテピアッツァ美唄

基本理念

誰もがこころを広げられる芸術広場

安田侃彫刻美術館 アルテピアッツァ美唄は、今を生きる全ての人が、無心に、自由に、思い思いの時間を過ごすための芸術広場です。

炭鉱で栄え、衰退していったこの土地の記憶、人々の思いを、場のエネルギーとして受け止める空間は、過去、現在、未来という時の流れの中で、静かに佇み続けています。そうしたかけがえのない空間となることを願いながら、美唄市と美唄市出身の彫刻家・安田侃によってこの美術館は作られました。

広がる景色の中に置かれた彫刻が、自然と一体となって息づくこの空間は、見る人自身のこころを映し、自分との対話ができる場所です。この空間が、この地に変わりなく在り続けることで、誰もが安心して帰れる「こころのふるさと」として、未来に繋いでいくため、以下の理念を掲げます。

- ・自然と人と芸術の新しいあり方を模索し、提案し続けます。
- ・地域と人、人と人をつなぐ交流の機会を作り、交流の場となります。
- ・地域の文化、芸術、学術の振興に貢献します。
- ・土地の記憶を受けつぎ、読み解きながら、次の世代へ伝えます。
- ・彫刻家・安田侃の研究を通して、その彫刻の精神を理解し、後世に伝えます。

※この基本理念は、平成28年度より始められた「美術館会議」において、将来の美術館の目指すべき姿を言葉にするため、美唄市教育委員会とNPO法人アルテピアッツァびばいが協力し、平成29年にまとめたものです。

なお、「美術館会議」は、美術館館長やNPO職員、教育委員会関係職員が集まり、必要に応じてアドバイザーを招聘しながら、本美術館が将来も維持成長できるよう、意識共有するために開催される会議です。

目 次

はじめに	1
安田侃彫刻美術館アルテピアッツァ美唄 施設概要	2
1. ビジョン策定の趣旨・目的	3
2. ビジョンの位置づけ・期間	4
(1) ビジョンの位置づけ	4
(2) ビジョンの期間	4
3. 美術館の現状と課題	4
(1) 現状	4
ア. 来館者の推移	4
イ. 来館者の傾向	5
ウ. 主な施設	6
エ. 主な展示作品	7
オ. 芸術振興等の事業	8
カ. 指定管理の状況	11
キ. 各種受賞歴	11
ク. 市民の意識	11
ケ. 野生動物の状況	12
(2) 課題	13
4. 具体的な施策の展開	14
(1) 既存施設の保全	14
(2) 野外彫刻の保全と新たな美術館の建設	15
(3) 既存設備・周辺環境の整備等	15
(4) 市民意識の高揚	15
(5) 指定管理制度による施設管理	15
(6) ソフト事業の拡充	16
(7) 環境維持のための人材確保	16
5. 具体的施策の行程のイメージ	16
参考 展示作品の一覧	17

はじめに

表題のサブタイトル～「フトゥーラ (FUTURA)」～は、イタリア語で「未来」を意味しています。このビジョンが、安田侃彫刻美術館アルテピアッツァ美唄の将来に向け、目指すべき未来・道標となるものとしています。

平成 4 (1992) 年に芸術文化交流施設としてオープンしたアルテピアッツァ美唄は、平成 9 (1997) 年にギャラリーの整備を行い、平成 18 (2006) 年に特定非営利活動法人アルテピアッツァびばい（現：認定特定非営利活動法人）に指定管理制度に基づく管理委託をし、平成 19 (2007) 年にカフェと体験工房をオープン、平成 28 (2016) 年に博物館法に基づく美術館となりました。

平成 29 (2017) 年には、25 周年となり、記念の展示事業を開催したほか、伊ブッチーニ財団の協力によるオペラコンサートも行いました。

その間、平成 15 (2003) 年には、天皇皇后両陛下が、北海道行幸啓でアルテピアッツァ美唄をご視察されたほか、本市が文化庁長官表彰を受賞する中心になるなど、四半世紀を経過する中で、国内外に、安田侃彫刻美術館アルテピアッツァ美唄の価値が広く認められてきましたが、今後、海外からの観光客の増加とともに、道道美唄富良野線の開通による来館者の増加のほか、施設の経年変化対応、野外彫刻の損傷、市民の関心の低さなど、様々な課題を解決しながら、この美術館の魅力を市民にも国内外にも発信していく必要があります。

彫刻は、ただ存在するだけであれば、その場所で数百年以上存在できますが、人の心と対話する芸術空間としての価値を存続させるためには、たくさんの人の理解・応援・支援が必要であるとともに、安田侃彫刻美術館アルテピアッツァ美唄の施設と彫刻作品を適切に維持・管理・保全しながら、その環境をより有効的に利活用するための将来の目標として本ビジョンを策定しました。

平成 3 0 年 6 月

美唄市教育長 星 野 恒 徳

安田侃彫刻美術館 アルテピアッツァ美唄 施設概要

安田侃彫刻美術館アルテピアッツァ美唄は、かつて日本有数の炭鉱都市であった本市東部の旧炭鉱住宅街の小学校跡に作られた、野外彫刻美術館です。

敷地内には、地元出身で国際的に知られるイタリア在住の彫刻家、安田侃氏の大理石やブロンズの作品 40 数点が展示されています。

彫刻と木々茂る山々などの自然が一体となった空間では、四季の移り変わりを満喫できます。

敷地面積 約 70,000 m²

主な施設

アールスペース（旧体育館）	木造一部鉄骨造 2 階建	延床面積 616.29 m ²
ギャラリー（旧校舎）	木造 2 階建	延床面積 388.80 m ²
ストゥディオ アルテ・ カフェ アルテ （体験工房・喫茶室）	木造平屋建	延床面積 242.63 m ²



○安田侃彫刻美術館アルテピアッツァ美唄のあゆみ

- 平成 3 年(1991) 閉校した旧栄小学校の体育館を交流スペース、アートスペースに改修
- 平成 4 年(1992) 7 月、野外スペースを整備し、アルテピアッツァ美唄としてオープン。「真無」^{まむ}「吹雪」^{ふぶき} など 5 作品を野外に展示
11 月、アートスペースで初めての演奏会を開催
- 平成 9 年(1997) 水の広場開設。「天聖」^{てんせい}「天モク※」^{てん}などを設置
- 平成 10 年(1998) 旧栄小学校校舎を改築
- 平成 11 年(1999) 旧栄小学校 2 階にギャラリーを開設
- 平成 13 年(2001) 10 月、北海道が創設した「北のまちづくり賞」知事賞受賞
- 平成 14 年(2002) 5 月、安田侃氏が「第十五回村野藤吾賞」受賞
受賞対象作品が「アルテピアッツァ美唄」
- 平成 15 年(2003) 7 月、天皇皇后両陛下が北海道行幸啓にて、アルテピアッツァ美唄を訪問
- 平成 18 年(2006) 4 月、指定管理者制度により、NPO 法人アルテピアッツァびばいが管理運営を開始
- 平成 19 年(2007) 4 月、ストゥディオアルテ、カフェアルテがオープン
ストゥディオアルテでは、毎月「こころを彫る授業」を開催
- 平成 22 年(2010) 6 月、音の広場に「真無」^{まむ}を設置
- 平成 24 年(2012) 7 月、アルテピアッツァ美唄 20 周年記念安田侃作品展「触れる」を開催
- 平成 28 年(2016) 4 月、登録博物館(美術館)となり、「安田侃彫刻美術館 アルテピアッツァ美唄」に改称
- 平成 29 年(2017) 7 月、開館 25 周年となり、記念事業として 8 月に「安田侃ブロンズ展」、10 月に「安田侃のまなざし展」、イタリアからオペラ歌手を招聘したコンサートを開催
※「天モク」の「モク」は、さんずい「氵」に「禾」

1. ビジョン策定の趣旨・目的

安田侃彫刻美術館アルテピアッツァ美唄は、開館から 25 年が経過し、設置された作品の数も 40 数点に増え、敷地面積も 3 倍以上と大きく増えたほか、指定管理者制度に移行するなど、開設当時と管理運営面において、大きく環境が変わ

っている状況にあります。

また、ここ数年は、台湾やタイなどを中心として、海外からの来館者が増加傾向にあり、平成 34(2022)年度には道道美唄富良野線の開通が予定され、これまで以上に来館者への対応などを行わなければならない状況にあるほか、施設の老朽化対応、野外彫刻の損傷、市民の関心の低さなど、様々な課題があるところでもあります。

こうした課題の解決方向を示しながら、芸術文化の振興による市民活動の活性化を基軸とし、世界でも稀有な美術館であり、地元美唄を語ることができる芸術広場、本市の交流の中心となるよう、観光ビジョンと整合性を図りながら、将来ビジョンをまとめることとしたものです。

2. ビジョンの位置づけ・期間

(1) ビジョンの位置づけ

本ビジョンは、本市の「第 6 期美唄市総合計画 後期基本計画」を最上位計画とし、第 2 次美唄市生涯学習推進計画後期基本計画に基づく個別計画と位置づけます。

第 6 期美唄市総合計画
後期基本計画

第 2 次美唄市生涯学習
推進計画後期計画

本 ビジョン

(2) ビジョンの期間

平成 30(2018)年度から 10 年間とします。

なお、次期総合計画などとの整合性を確認するため、平成 32(2020)年度、平成 37(2025)年度に内容の見直しを行うこととし、社会情勢の大きな変化があった場合についても同様とします。

3. 美術館の現状と課題

(1) 現状

ア. 来館者の推移

来館者の推移としては、近年 3 万人前後で推移していましたが、徐々に減少し、平成 28(2016)年度は、過去 10 年間で最低の 24,007 人でした。

平成 27(2015)年度の団体来館者の増加は、台湾からの団体来館者によるもので、今後も増える傾向にあると推測されます。

また、平成 34(2022)年度に予定されている道道美唄富良野線の開通により、来館者の増加が期待されるところです。

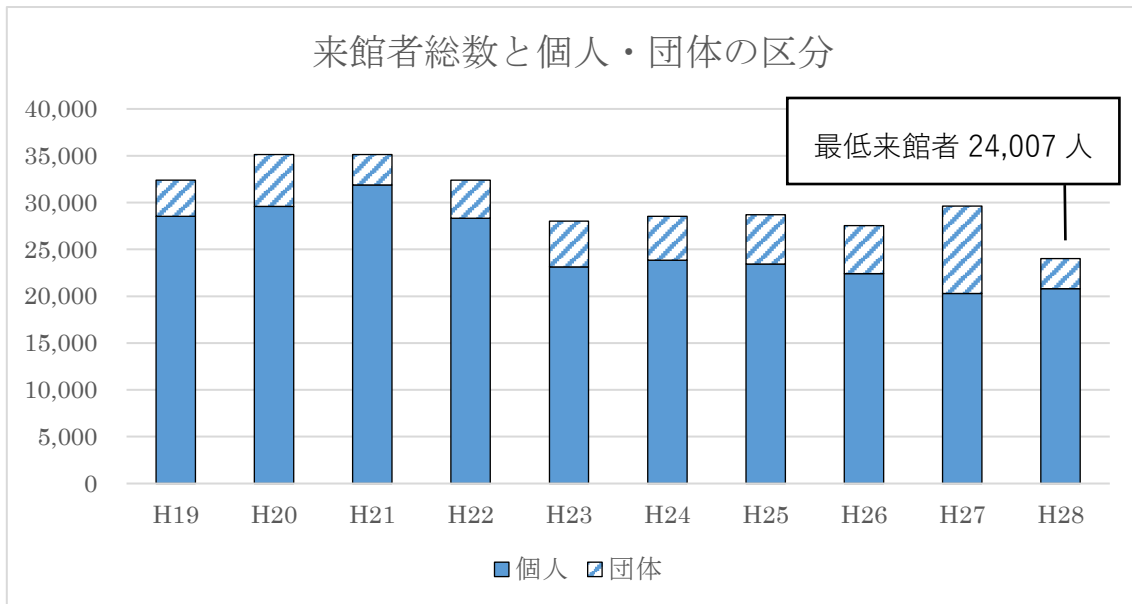


図1 ～NPO 法人アルテピアッツァびばい作成 入館状況一覧より

イ. 来館者の傾向

平成 28(2016)年度の来館者の傾向は、市内と市外の割合は、おおむね 1 : 9 と市外が多く、道内と道外の割合は、7 : 3 で道内が多くなっています。

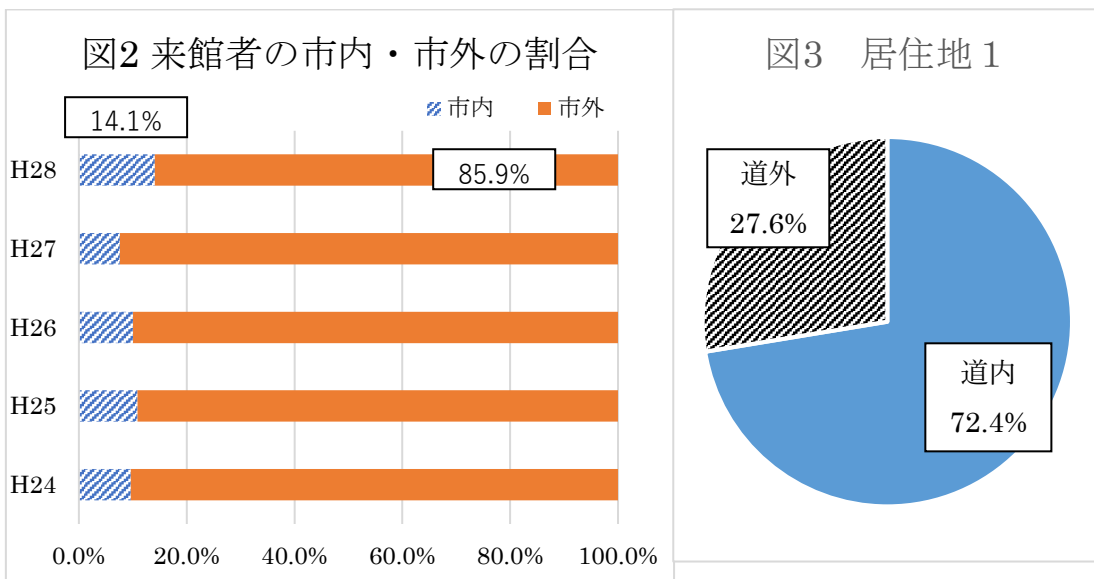


図2 ～NPO 法人アルテピアッツァびばい作成 入館状況一覧より算出

来館者の居住地の内訳は、札幌市が最も多く 35%となっています。

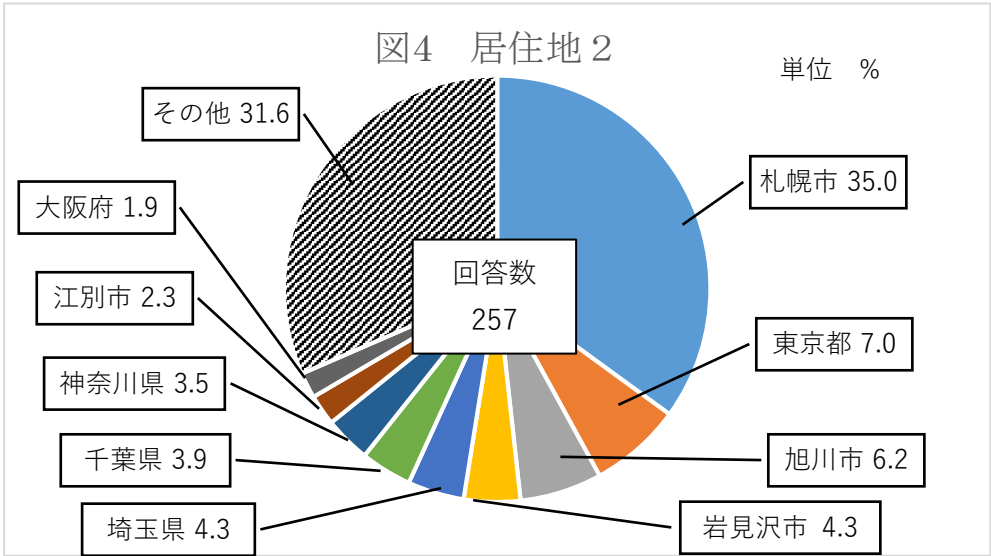


図3、4 ～平成29年2月 サイクリング等観光ルート形成・経済効果調査事業委託業務より

平成28(2016)年度の月別来館者は、5月から10月までは、約2,600人から約4,300人で推移していますが、11月から2月までは500人に満たない状況となっています。

表5 平成28(2016)年度月別来館者数 (単位: 人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
人数	875	4,077	3,051	3,324	4,344	3,509	2,674	497	327	263	342	724

表5 ～NPO 法人アルテピアッツァびばい作成 入館状況一覧より

ウ. 主な施設

アートスペース	(栄小学校)昭和33年(1958)建築、平成3(1991)年改築
トリフォリオ広場	平成6(1994)年造成
水の広場	平成8(1996)年整備、平成21(2009)年一部補修(石舞台)
ギャラリー	(栄小学校)昭和25(1950)年建築、平成10(1998)年改築
天翔の丘	平成14～15(2002～2003)年造成
音の広場	平成18(2006)年造成
カフェアルテ スタジオアルテ	平成18(2006)年建築

エ. 主な展示作品

平成 29(2017)年末現在で、45 点の作品を常設展示しており、うち野外設置している作品は、27 点となっています。



○展示作品数の状況

	屋外		屋内		計
	大理石	ブロンズ	大理石	ブロンズ	
アートスペース			3	3	6
水の広場	4	4			8
天翔の丘	1	2			3
トリフォリオ広場	1	2			3
ギャラリー			7	4	11
音の広場と周辺	2	6			8
カフェと周辺	1	4		1	6
計	9	18	10	8	45
	27		18		

オ. 芸術振興等の事業（ソフト事業）

（ア）対話型美術鑑賞（市事業）

参加者が美術作品を鑑賞した後、コーディネーターが感想などを引き出しながら、参加者相互に共有することで、他者を容認し、対話力などを養成するプログラムで、特に子供に対して効果が発揮されます。

市では、委託により協力員を養成し、彫刻や本美術館の自然を題材としたプログラムを実践しています。



（イ）「ココロのかたち」（中学校美術授業）

市内中学校の美術の時間で、生徒の心象を粘土で具象化した彫刻を制作する授業です。1年生より「自分に向き合う」様々な課題を取り入れ、3年生の時に制作した作品が展示されます。抽象的、写実的な様々な作品が並び、安田侃氏も注目する事業です。



対話型美術鑑賞と同じく、生徒の内面を現実引き出すプログラムとなっています。

(ウ) こころを彫る授業 (NPO 事業)

大理石等を素材に自分の「こころ」のかたちを彫る事業で、平成 19(2007)年より毎月最初の土日に開催し 11 年目を迎えます。

また、不定期に開催している安田侃氏が直接指導する「安田侃の『こころを彫る授業』」も実施しており、道内外から多くの参加者が集まっています。



その他、市内外のイベントで「こころを彫る授業」体験を実施しています。

(エ) 定時ガイド (NPO 事業)

4 月から 11 月までの毎週土曜日、10 時から 30 分程度、NPO スタッフがガイドをします。

季節や天候によって館内や屋外など開催場所が変わり、作品と空間に「出会った」ときの印象を、参加者全員で受け止めながら、敷地内を歩きます。

(オ) アルテ〇〇の学校 (NPO 事業)

平成 27(2015)年度から開始し、「誰でも参加出来る、小さな発見の場」がコンセプトの授業形式の講座です。様々なジャンルの講師を招き、年 4 回程度実施しています。



これまでの開催テーマ

- ① 写真 ②サーカス ③クマ ④シカ ⑤デザイン ⑥星空
- ⑦シメツチ (湿地) ⑧豆腐作り ⑨古民家 ⑩アスパラ ⑪本屋

(カ) 炭山 (ヤマ) の記憶事業 (NPO 事業)

炭鉱で栄え、人がたくさんいた当時の美唄を知っている方々の想いを次世代につなぐ活動です。

市内の炭鉱に関わる写真など情報収集をするとともに、美唄に帰省する方が多いお盆の時期にギャラリーで「思い出の炭鉱写真展」を開催し、往時の炭鉱地区の白地図を掲示し、思い出を地図に記入するほか、

「炭鉱映像館」として当時の貴重な動画を上映しています。



我路地区や南美唄地区をウォーキングしながら巡る、「てくてく美唄炭鉱」も開催しています。

なお、郷土史料館からの資料の貸し出しや、関係団体の協力も受けています。

(キ) アルテ市民 popolo (NPO 事業)

「popolo＝ポポロ」とは、イタリア語で市民を意味しており、サポーターを「市民」というとらえ方をし、訪れる人や遠くから本美術館のことを想ってくださる人など、みんなで本美術館を支えようという制度です。



個人会員として、市外の方はポポロとして 3,000 円、市内在住の人は美唄ポポロとして 500 円、中学生以下はコポポロとして 500 円、団体会員として 1 口 30,000 円が会費となっています。

ポポロになると、本美術館で開催されるイベントの割引などのサービスがあります。

(ク) アルテ文庫 (NPO 事業)

ギャラリーとカフェアルテに設置され、安田侃氏のセレクト書籍、写真集や専門書、手に入りにくい国内外の貴重な書籍を、寄附をいただきながら集め、それぞれの室内で読むことができます。



(ケ) その他の事業 (NPO 事業)

社会福祉協議会主催の市民向けの講座の講師派遣や、市内外のイベントでの P R 活動、彫刻体験ブースの設置など、彫刻作品や本美術館などに親しむ講座を実施しています。



また、毎週土曜日の朝には、市民や一般の方による清掃ボランティアの協力があり、落ち葉集めなど維持活動をしています。

カ. 指定管理の状況

平成 18(2006)年 4 月から、NPO 法人アルテピアッツァびばいに対し、指定管理制度による委託をしており、収入については、その大部分を占める市からの指定管理費以外は、イベントや展示の主催者などによる会場使用料で、近年 500 千円未満で推移しています。

NPO 法人の自主事業収益により、不足する管理事業費を補填して収支均衡を図っていますが、経営的には厳しい状況が続いています。

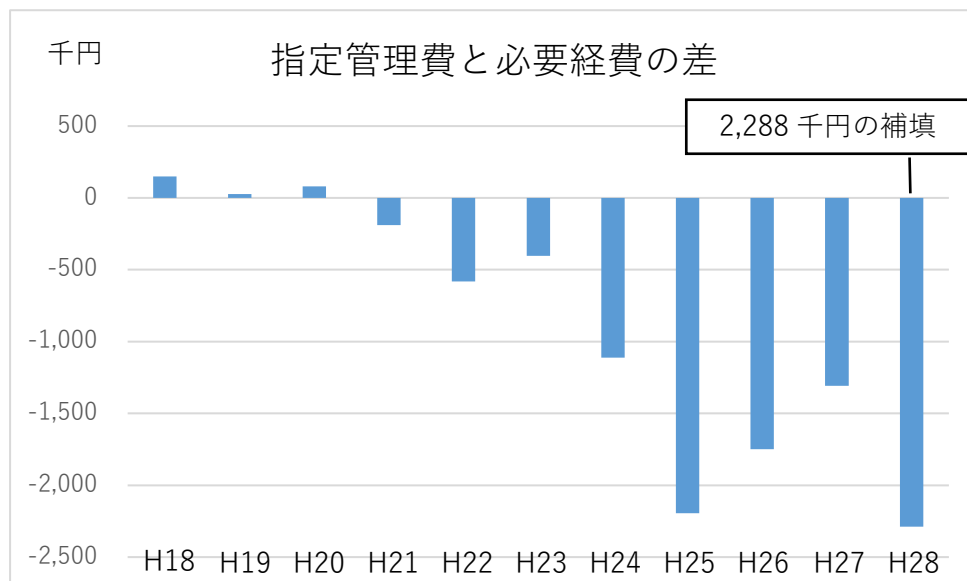


図 6 ～教育委員会へ提出の指定管理費に係る決算資料より集約

キ. 各種受賞歴

安田侃彫刻美術館アルテピアッツァ美唄が各種団体から賞を受賞した履歴は次のとおりですが、この他、安田侃氏個人は、イタリア連帯の星勲章や第十五回村野藤吾賞など、認定NPO法人アルテピアッツァびばいは、総務大臣表彰やエクセレントNPO大賞市民賞など、それぞれイタリアや日本国内の各種団体から、数々の賞を受賞しています。

受賞年月	授与者	名 称
H13(2001)年 10 月	北海道	北のまちづくり賞 知事賞(対象 アルテピアッツァ美唄)
H27(2015)年 3 月	文化庁	文化庁長官表彰（文化芸術創造都市部門）

ク. 市民の意識

平成 29(2017)年に実施された「観光振興ビジョン策定観光コンテンツ調査・分析事業」の市民を対象とした調査において、「道内の他市町村の人に、美唄を

お勧めするとしたら、どんなポイントが」あるかの設問にて、美唄焼き鳥やとりめしなどの郷土料理(80.8%)に次いで、本美術館が2番目に高い数値(60.8%)を得ました。

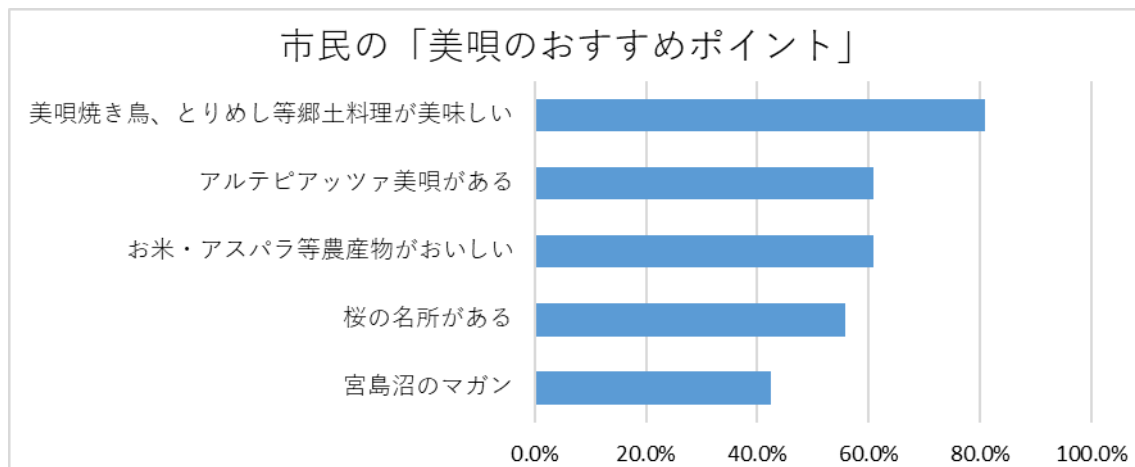


図7 ～平成29年2月 サイクリング等観光ルート形成・経済効果調査事業委託業務より

また、市の中で興味があるものを選択する設問では、美唄焼き鳥(40.0%)に次いで、本美術館が2番目であるものの、28.3%と低い数値でした。

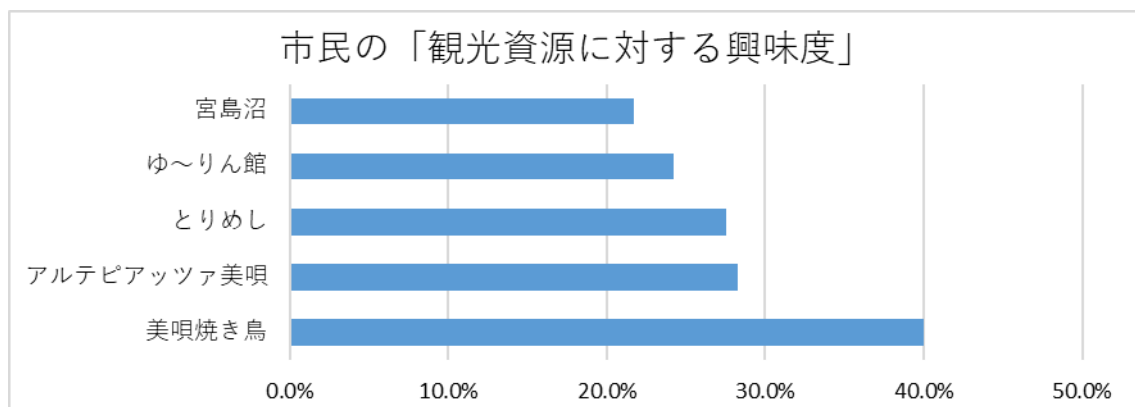


図8 ～平成29年2月 サイクリング等観光ルート形成・経済効果調査事業委託業務より

ケ. 野生動物の状況

本美術館の周辺は、ヒグマやエゾシカ、モモンガ、コウモリなどの哺乳類をはじめ、鳥類、昆虫類など、多種多様な野生動物が生息する場所になっており、季節や時間によって、敷地内などにも出没することがあります。

近年は、周辺地域でヒグマの出没頻度が増す傾向にあり、エゾシカは、敷地内で芝の採食、コウモリは、老朽化した施設の外壁の隙間を住処とし、数種類の昆虫は、施設内を越冬場所としています。

(2) 課題

安田侃彫刻美術館アルテピアッツァ美唄は、世界でも稀有な癒しの空間として、国内外の多くの人たちから心を寄せていただける「広場」となっています。

本市の総合計画では、「食・農・アートが響き合う緑のまち美唄」を掲げ、市内に点在する地域資源や人、団体を活用し、交流人口の増加による市内経済の活性化を目指しており、その中心に「安田侃彫刻美術館アルテピアッツァ美唄」が位置付けられているところです。

しかしながら、安田侃彫刻美術館アルテピアッツァ美唄の建物については、建築整備から相当年を経過したものがあり、改修を行っているものの、その保存整備が必要な状況となっています。

野外に常設展示している大理石やブロンズなどの彫刻は、北海道の湿気や寒暖差が大きい環境に長期間さらされた影響から、表面の保護成分の劣化、大理石に含有する金属の変質などにより、彫刻の亀裂や変形、腐食の穴、着色汚れなどが生じているとともに、来館者の無意識の接触による損傷や摩耗、汚れなどもあり、彫刻作品の損傷等が確認され、作品を恒久的に保護する観点から、補修手法の確立による定期的な補修作業が課題となっていることに加え、今後、新たな作品を屋内に展示するにしても展示スペースの確保が課題となっていることから、今後も本美術館の空間に作品展示し続けられるよう、設備や人材を含め、環境整備が必要になっています。

また、平成 34(2022)年度に予定されている道道美唄富良野線の開通に合わせ、観光客の増加が見込まれ、今後、総合計画やまち・ひと・しごと創生総合戦略、都市計画マスタープラン、観光ビジョンとの整合性を図りながら、本美術館及び周辺環境を整備・保存・規制していくことが課題となります。

さらに、市民との協働で、どのように安田侃彫刻美術館アルテピアッツァ美唄を本市の財産として関心を深めていくかなど、市民意識の醸成が必要です。

なお、それぞれの課題を解決するための、財源対応も十分に検討しなければなりません。

主な課題

項目	内 容
既存施設の保存	・ アートスペース、ギャラリーについて、それぞれ平成 3(1991)年、平成 10(1998)年の改築以降、大規模な改修をしておらず、経年変化により屋根や外壁の損耗が進んでいる。

	・新たに作品を置く場合、作品の重さや空間に対応した場所の確保ができない。
野外彫刻の保全	・大理石作品は、北海道の気候の影響から大理石の劣化が、ブロンズ作品は、気候や来館者の無意識の損傷、汚れなどからの腐食があるため、本美術館の空間に、今後も作品があり続けられるような方法が必要。
周辺環境の整備	・電柱・電線が自然景観に影響している場所がある。 ・駐車場には水溜まりや凹みが多くなり、利用者に不便を強いているとともに、道道美唄富良野線開通予定に伴い駐車場の整備・拡張が必要で、来訪者を受け入れるための環境が不十分である。 ・水の広場など、排水設備や流路の水漏れなど、設備の老朽化が見られる。 ・野生動物の配慮や不審者への対策が必要。
市民意識の高揚	・市民の約 6 割が本美術館を認識しているものの、3 割弱の興味度で低い傾向にある。
環境維持の人材確保	・本美術館が将来にわたってその価値を保てるよう、敷地内の維持管理、作品の保全修復など、必要な人材を将来にわたって確保する必要がある。

4. 具体的な施策の展開

安田侃彫刻美術館アルテピアッツァ美唄を芸術・文化、癒しの空間、観光資源としてとらえ、世界でも稀な美術館として、その保存活用を進めるため、「短期的施策」「中期的施策」に分類し、それぞれ推進に努めます。

なお、いずれの整備に当たっても、ふるさと納税制度やアルテピアッツァ美唄整備基金に加え、各種助成制度や民間投資なども含め、幅広い財源の確保について検討するとともに、作家や NPO と協議しながら、施策の進行管理を行います。

(1) 既存施設の保全（中期的施策）

ギャラリーとアートスペースは、施設の開館当時に改修工事を実施しましたが、その後大規模な修繕をしていないため、来館者への影響を最小限にしつつ、保全が必要な部分について、手法の検討を踏まえながら、段階的な改修に努めます。

(2) 野外彫刻の保全と新たな美術館の建設（短期的施策）

平成 28(2016)年の NPO 法人アルテピアッツァびばいによる調査では、彫刻表面の保護成分の劣化などにより、作品への影響が問題となっていることから、補修手法の確立や定期的な保護作業を続けるとともに、彫刻作品の大きさ等により、アートスペースやギャラリーでは展示できない安田侃氏の作品を、自然の影響を受けずに展示できるスペースを確保するため、本美術館の空間に沿った美術館棟の整備に努めます。

(3) 既存設備・周辺環境の整備等（中期的施策）

「水の広場」の流路・池の給排水装置の機能不全や、駐車場の水たまりなどで、来館者に不便を強いている状況や、平成 34(2022)年度に予定されている道道美唄富良野線の開通による来館者の増加を見据え、大型バス等にも対応可能な駐車場の整備・拡充のほか、敷地内の無電柱化など、環境整備に努めます。

また、個人や企業などが本美術館周辺の利活用を無作為に行う可能性もあることから、土地利用のあり方については、風営法関連店舗や工場及び倉庫など周辺環境に影響のある施設建設の制限について検討するなど、都市計画マスタープラン等との整合性を図りながら、景観保全を視野に入れ、適切な環境保全に努めます。

(4) 市民意識の高揚（中期的施策）

来館者が市内にもたらす経済効果を確認するため、聞き取り調査などにより定期的に把握するとともに、本美術館の価値や魅力を市民や市内団体に伝えながら、理解者・協力者を増やし、市民意識の醸成に向け取り組みます。

(5) 指定管理制度による施設管理（短期・中期的施策）

本美術館は、指定管理者制度を活用し、NPO 法人による管理運営を行っています。

収益性の観点から、これまでも入館料収入の必要性について議論されてきているところではありますが、本美術館の名称でもある「ピアッツァ＝広場」という美術館の価値の根幹をなす考え方を守り、本美術館単体で収益性を求めるよりも、交流人口から発生する経済効果によって市の活性化を目指すという考えに立ち、同 NPO 法人と協力関係を保ちながら、必要な財源確保について検討を続

けながら、適切な施設管理を行います。

(6) ソフト事業の拡充（短期・中期的施策）

学校事業との連携のほか、本美術館で取り組んでいる芸術振興等のソフト事業を拡充し、本美術館事業の普及啓発や芸術文化活動を推進しながら市民の創作活動の高揚を図ります。

(7) 環境維持のための人材確保（短期・中期的施策）

本美術館の価値を守り、後世に伝えるためには、彫刻や施設保全だけではなく、それらを手がける人材が重要であるため、運用や保全に必要な職員の確保に努めます。

5. 具体的な施策のスケジュール予定

各施策を進めるにあたっては、財源対応や施設の状況などを把握しながら、取り組みます。

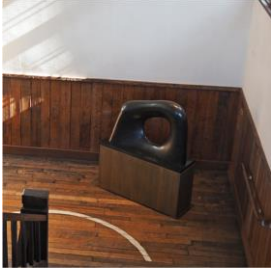
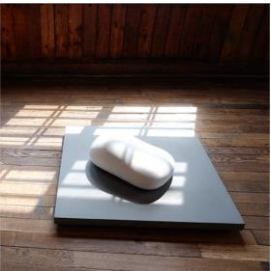
	H30	H31	H32	H33	H34	H35～ H39
既存施設の保全	市・作家・NPO の協議 既設施設の保全策検討※1			検討結果の 具体的な取り組み		
野外彫刻の保全 ・新美術館の建設		調査・設計・建設				
	作品保護手法の検討・実践					
既存施設 ・周辺環境整備		緊急性・必要性の順に整備				
	土地利用対策			駐車場整備		
市民意識の高揚	景観保全対策・市民周知					
施設の管理運営	指定管理制度に基づく NPO 法人との協力					
ソフト事業拡充等	普及事業の紹介・支援					
人材確保	運用や保全に必要な人材確保					

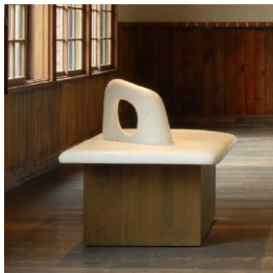
※1 屋根については緊急性があるため早期改修が必要

参考 展示作品の一覧

表示順 ・ 作品名 ・ 材質 ・ 設置年月日 ・ 作品サイズ(cm) ・ 保有状態

①回生(かいせい) 白大理石  1992. 4. 1 設置 38×135×112	②無何有 I (むかう) ブロンズ  1992. 4.12 設置 17×194×196	③帰門(小) (きもん) ブロンズ  1992.11. 6 設置 25×66×68
④めばえ ブロンズ  1992.11. 6 設置 24×24×50	⑤無何有 II (むかう) ブロンズ  1993. 4.12 設置 20×96×194 18×96×194	⑥無何有 III (むかう) ブロンズ  1993. 4.12 設置 12×218×148
⑦真無(まむ) ブロンズ  1993. 5.17 設置 85×280×290	⑧吹雪(ふぶき) ブロンズ  1993.11. 2 設置 65×55×300	⑨地人(ちじん) ブロンズ  1993.11. 2 設置 80×160×220

⑩帰門(大) (きもん) ブロンズ  1993.11.25 設置 80×260×460	⑪妙夢(みょうむ) ブロンズ  1994. 1.10 設置 25×105×73	⑫天光散(てんこうさん) ブロンズ  1994. 1.10 設置 26×87×61
⑬意心帰(いしんき) 白大理石  1994.12. 2 設置 34×50×21	⑭天モク(てんもく) 白大理石  1994.12.15 設置 260×385×100	⑮天モク(てんもく) 白大理石  1994.12.15 設置 80×350×240
⑯天聖(てんせい) 白大理石  1995.10.10 設置 90×250×390	⑰天秘(てんぴ) 白大理石  1996. 5.31 設置 64×80×17 62×74×16	⑱真無(まむ) トラヴェルティーノロッソ  1996. 9. 3 設置 20×50×55
⑲めざめ 白大理石  1997.12.17 設置 68×90×78	⑳新生(しんせい) ブロンズ  1997.12.17 設置 60×79×68	㉑生誕(せいたん) ブロンズ  1997.12.17 設置 60×82×87

②②無何有(むかう) 白大理石  1999. 4. 1 設置 100×120×55	②③天翔(てんしょう) 白大理石  1999. 4. 1 設置 16×75×33	②④天秘(てんぴ) 白大理石  1999. 4. 1 設置 10×32×55
②⑤妙夢(みょうむ) 白大理石  1999. 8.13 設置 92×165×47	②⑥相響(そうきょう) 白大理石  1999. 8.13 設置 38×52×32	②⑦風(かぜ) 白大理石  1999. 8.13 設置 24×93×77
②⑧天モク(てんもく) ブロンズ  1999. 8.13 設置 36×115×100	②⑨妙夢(みょうむ) ブロンズ  2000.10.12 設置 85×400×260	③⑩相響(そうきょう) ブロンズ  2002. 9.10 設置 150×200×150
③①天翔(てんしょう) 白大理石  2002. 9.10 設置 80×330×105	③②意心帰(いしんき) ブロンズ  2002. 9.10 設置 320×223×150	③③天聖(前)(てんせい) ブロンズ  2002. 9.10 設置 215×48×275

③④天モク(奥)(てんもく) ブロンズ  2002. 9.10 設置 187×47×275	③⑤めざめ ブロンズ  2003. 3.30 設置 75×90×70	③⑥ひとつがふたつ ブロンズ  2003. 5.25 設置 140×99×285
③⑦妙夢(みょうむ) 白大理石  2003. 5.29 設置 200×280×90	③⑧天秘(てんぴ) ブロンズ  2004. 9. 6 設置 55×290×230	③⑨天秘(てんぴ) ホワイトブロンズ  2008. 8. 7 設置 45×190×165
④⑩意心帰(いしんき) 白大理石  2008. 8. 7 設置 62×130×85	④⑪真無(まむ) 白大理石  2009.11.26 設置 250×410×157	④⑫じん肺根絶の碑 ホワイトブロンズ  2011. 9.28 設置 150×260×400
④⑬天秘(てんぴ) ブロンズ  2012. 8. 7 設置 55×290×230	④⑭天秘(てんぴ) 白大理石  2012. 8. 7 設置 200×164×40	④⑮天翔(てんしょう) ブロンズ  2017. 8.14 設置 150×400×112

このビジョンの策定にあたっては、一般財団法人地域総合整備財団の地域再生マネージャー事業（外部専門家派遣（短期診断））にて、市内のまちづくり団体等の聞き取り調査に基づく提言を踏まえ、作成しました。

安田侃彫刻美術館アルテピアッツァ美唄ビジョン

美唄市 教育委員会